

【地域や時代背景】

SNSやオンライン上の情報があふれる現代において容易に答えを見つけられる環境である反面、自ら体験し、悩み、考える機会が少ない子どもたちが増えることが危惧されます。子どもの頃の原体験を通じた学びこそが、創造力や主体性、他者への理解を育む基盤であり、こだま地域の将来を担う子どもたちにとって、今こそ実際に考動し、心を動かす経験を重ねる教育が求められています。

【背景から事業を行う目的】

子どもたちが自ら「原体験」を通じて夢を抱き、やりたいことについて主体的に考え、実現する力を育むことを目的とします。SNSや情報にあふれた時代だからこそ、単なる知識の習得ではなく、考動や体験を通じた学びの場をつくり、子どもたちが将来に向けて必要とする人間力、感謝の気持ち、やり抜く力、考える力の3つの要素を中心に育成します。

さらに防災をテーマに子どもたちが自分自身や仲間、そして地域との関わりについて考える事業を行います。この学びは防災の枠を超え、“自助・共助・公助”の考えを日常的に人間関係や自身の生活、強いては地域活動に生かす力へとつながり、支え合いの心や地域を想う気持ちを育てます。

【事業の結果】

本事業を通じて、子どもたちは“与えられた学び”から自らつくる学びへと意識を変化させます。自分で考動し、仲間と協力して課題に取り組む経験を重ねる中で、失敗を恐れず挑戦する姿勢とやり抜く力が育まれます。その結果、目の前の課題だけではなく、自分の将来に前向きに向き合えるようになり、できない理由ではなく、どうすればできるかを考動できる人財となります。

また防災を通じた学びでは、命の大切さや人と人とのつながりを実感し、自分だけではなく、家族・仲間・地域を想う責任感が芽生えます。その結果子どもたちは“自助・共助・公助”の考え方が日常生活に活かし、地域の一員として自分にできることを考え、最終的に夢を描き、考動し、実現する力と、地域と共に生きる力を身につけ、こだま地域の未来を担う“自立した若者”へと成長します。

【結びに】

青少年育成委員会の事業を通じて、こだま地域の子どもたちやLOMのメンバーが感謝の気持ち、やり抜く力、考え行動する力等の人間的な成長を目指します。意義のある例会だったと皆様に言ってもらえるような1年間として参ります。この委員会の1年間のコンセプトは「原体験」です。私は「原体験」こそ、子どもたちの経験において、

強烈な記憶として残ることだと考えています。子どもたちが大人になるにあたり、いろいろな選択をする上での基準や価値観につながると確信しております。この1年委員会の皆様を中心に、LOMのメンバーの皆様と原体験を通じて、人間的な成長をもっとしていきたいと思っておりますので、どうぞ、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【事業計画】

1. 4月例会の開催
2. 8月例会の開催

【事業予算】

500,000円